2021年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

作業療法学科
1年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科　2021年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活　社会の理解	心理学	●
	法学	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	外国語（英語）	
	コミュニケーション論	●
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学Ⅰ	●
	解剖学Ⅱ	●
	人体の構造と機能	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
	生理学実習	●
	運動学Ⅰ	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学概論	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	看護・介護概論	
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法概論	●
	作業療法演習Ⅰ	
	作業療法演習Ⅱ	
地域作業療法学	生活環境論	●
作業療法管理学	医療倫理・職業倫理	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活　社会の理解	医療英会話	
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学実習	●
	運動学Ⅱ	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
基礎作業療法学	応用作業療法学	●
	作業療法演習Ⅲ	
	作業療法研究法Ⅰ	●
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	●
	作業療法評価学Ⅱ	●
	作業療法評価学Ⅲ	●
作業療法治療学	日常生活技術論	●
地域作業療法学	レクリエーション（選択必修）	
	障害者スポーツ（選択必修）	
臨床実習	見学実習	

3年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	作業療法研究法Ⅱ	●
作業療法評価学	作業療法評価演習	
作業療法治療学	日常生活技術演習	●
	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	高次脳機能治療学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	内部障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学	●
	末梢神経系作業療法学	●
	臨床作業療法学	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	

4年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	総合演習Ⅰ	●
	総合演習Ⅱ	●
作業療法管理学	作業療法管理学	●
臨床実習	在宅リハビリテーション実習	
	臨床実習Ⅱ	

1. 基礎分野

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
心理学	松本　貴智	一般	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

心理学とは何か？どのような学問なのか？ということから講義を開始し、性格や発達などに関する心理学的理論について解説していく。

【学習目標(到達目標)】

①学習により、日常生活や作業療法士としての仕事に役立つヒント・理論を獲得する

②学習により、仕事や生活が円滑に営めるようなコツを学ぶ

【受講して得られる力】

考え抜く力

知識・理解

論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	①心理学講義の今後の予定について　②心理学の概論・歴史	個人
2	パーソナリティ心理学	①性格とは　②性格の成り立ち　③類型論・特性論 ④グループワーク	個人・グループ
3	パーソナリティ心理学	①認知スタイル　②いろいろな性格理論　③グループワーク	個人・グループ
4	集団・社会心理学	①社会心理学について　②同調行動・群集心理 ③社会的促進　④ステレオタイプ　⑤グループワーク	個人・グループ
5	集団・社会心理学	①認知的不協和　②官能評価　③リーダーシップ ④囚人のジレンマ　⑤グループワーク	個人・グループ
6	発達心理学	①発達心理学について　②胎児の感覚　③愛着理論 ④発達課題	個人・グループ
7	発達心理学	①アイデンティティ　②サクセスフルエイジング ③グループワーク	個人・グループ
8	認知・学習・記憶の心理学	①認知について　②錯覚　③学習・条件付けについて	個人・グループ
9	認知・学習・記憶の心理学	①記憶について　　②グループワーク	個人・グループ
10	精神疾患とストレス	①臨床心理学について　②精神的ストレスと対処法 ③精神医学的疾患について	個人・グループ
11	精神疾患とストレス	①心理検査　②心理療法　　③グループワーク	個人・グループ
12	一般身体疾患と心理学	①内科的・外科的疾患のリハビリテーション治療における 心理学的知見・支援方法について	個人・グループ
13	リハビリテーションの現場における 心理学を考える	①リハビリテーションで応用されている心理学理論について　②グループワーク	個人・グループ
14	リハビリテーションの現場における 心理学を考える	①リハビリテーションで応用されている心理学理論について　②グループワーク	個人・グループ
15	総まとめ	①これまでの講義の振り返り	個人・グループ

期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習を心がけてください。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
法学	菅原　好秀	一般	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

医療の専門職として、最低限の日本国憲法を前提とした法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。講義では、単なる日本国憲法を前提とした法学的知識を習得するにとどまらず、医療の専門職として、現代の医療の法制度の現状と課題について、人権における法学的視点から問題点を発見し対応ができることを目的とします。

【学習目標(到達目標)】

①日本国憲法と医療職との関係性について説明することができる。
②医療の人権問題について、法学的視点から問題点を発見し対応ができる。
③法体系全体を、判例を踏まえて医療の視点から説明することができる。
④現代医療の課題について、法学的視点から問題点を発見し対応ができる。
⑤医療現場における具体的事例に対し、法学的根拠に基づいた対応ができる。

【受講して得られる力】

論理的思考力
問題解決力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
創造的思考力
コミュンケーションスキル

【履修上の注意】法律を自らの力で考え貫く学生を望みます。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	日常における法とのかかわり、法の機能・分類、法の歴史。 日常における法の重要性を、事例とともに理解する。	個人・グループ
2	人権総論と人権の享有主体性	人権の歴史と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
3	人権の妥当範囲と基本的人権の限界	公共の福祉と医療との関係性について、判例とともに理解する。	個人・グループ
4	包括的権利と幸福追求権	自己決定権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
5	精神的自由権と経済的自由権	表現の自由と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
6	社会権と生存権	生存権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
7	受益権と国家賠償請求権	国家賠償請求権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
8	統治機構における国会・内閣・裁判所	統治機構と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
9	地方自治と住民自治・団体自治	地方自治と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
10	憲法改正と憲法保障	憲法保障と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
11	憲法判例と医療	憲法における医療の裁判事例について理解する。	個人・グループ
12	医療とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメントについて理解する。	個人・グループ
13	医療と法制度の現状	医療と法制度の現状について理解する。	個人・グループ
14	医療と法制度の今後の課題	医療と法制度の今後の課題について、事例とともに理解する。	個人・グループ
15	まとめ	憲法および法学の授業を振り返り、法学と医療の全体像を理解する。	個人・グループ
期末試験	前期期末試験	評価方法	受講態度 30% 筆記試験 70%

【教科書】	渡辺信英編『日本国憲法　人権と福祉』(南窓社)
【参考書】	講義において適宜指示します。
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書の該当する項目を熟読し、テーマの意味、テーマの事象が生じた理由、テーマの活用について考えて下さい。授業終了後は、ノートを見ながら、しっかり理解できたかどうか確認して下さい。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
社会福祉学	阿部 正孝	一般	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

私達が過ごしやすい社会を作り出すために求められている社会福祉について多面的に学びます.

【学習目標(到達目標)】
①変動する社会環境の中での社会問題を学ぶ
②高齢化・少子化における現代社会の性質を学ぶ
③人々が過ごしやすい社会の社会福祉を学ぶ
④
⑤

【受講して得られる力】
考え抜く力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
知識・理解
態度・志向性
統合的学習体験

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	社会福祉の理念と意義生活と福祉	少子高齢化と人口減少社会について学びます.	個人
2	社会福祉の理念と人権 基本的人権とノーマライゼーション	現代の福祉理念と社会福祉を支える諸原理を学びます.	個人
3	社会福祉・社会保障の意義と役割	社会保障制度の意義や機関を学びます.	個人
4	子ども家庭福祉1 少子化時代と子育て	少子化時代の子育て支援を学びます.	個人
5	子どもの家庭福祉2 子どもの成長と問題(児童虐待)	すこやかな成長の支援や課題を学びます.	個人
6	障害者福祉1 障害とは何か？	障害についての考え方をさぐります.	個人
7	障害者福祉2 身体障害・知的障害・精神障害	各障害の課題を学びます.	個人
8	高齢者福祉1 高齢者福祉と介護保険	高齢者の健康保持と介護サービスを学びます.	個人
9	高齢者福祉2 老人福祉施設と高齢者福祉の将来	高齢者の在宅サービスと認知症ケアを学びます.	個人
10	生活支援のための公的援助 我が国の社会保障制度の枠組み	公的扶助と社会保障制度を学びます.	個人
11	人間関係とコミュニケーション1 コミュニケーションの構築	コミュニケーションの意義・役割を学びます.	個人
12	人間関係とコミュニケーション2 コミュニケーションにおける人間関係の形成	援助における自己理解を学びます.	個人
13	社会福祉援助活動の概要	社会福祉の援助活動の概要を学びます. ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの活用.	個人
14	地域福祉の社会的支援制度 地域医療・教育・就労	多様な社会的支援制度を学びます.	個人
15	まとめ	振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	特に指定しません.
【参考書】	特に指定しません.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	受講後は様々な社会問題や, 地域社会の課題について述べられるようになることを期待

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
統計学	野田　工	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ．データの分布に関する知識を身に付け，データの処理を習得し，推測と仮説検定法について理解する．

【学習目標(到達目標)】

①データを整理・分析するために必要な統計学の基本的な考え方について理解する．
②データの整理・分析手法を理解するための基礎を身につける．
③母平均の推定・検定について理解する．
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
問題解決力
論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	統計学の概説	統計の必要性，統計で用いられるデータの概要が理解できる	個人
2	データの表わし方	データの種類の概要が理解できるとともに，データをグラフや表で表わすことができる	個人
3	データの分布の代表値　1	データの分布の特徴(中心)を表わす代表値について理解できる	個人
4	データの分布の代表値　2	データの分布の特徴(拡がり)を表わす代表値について理解できる	個人
5	データ間の関係	2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる	個人
6	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布について理解できる	個人
7	正規分布1	連続型確率分布である正規分布の定義が理解できる	個人
8	正規分布2	標準正規分布表を用いた計算について理解できる	個人
9	二項分布	離散型確率分布である一様分布，二項分布，ポアソン分布について理解できる	個人
10	母集団と標本	母集団と標本の違いについて理解できる	個人
11	区間推定1	点推定と区間推定の違いについて理解できる	個人
12	区間推定2	母分散が既知の場合と未知の場合の母平均の区間推定方法について理解できる	個人
13	仮説検定	検定の考え方、有意水準、第一種の過誤、第二種の過誤について理解できる	個人
14	母平均の検定	母平均の検定方法について理解できる	個人
15	まとめ	今までの講義内容を振り返ることにより，統計学に関する知識を身に付ける	個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% レポート 40%

【教科書】	はじめての統計15講　小寺平治　講談社
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	データの収集・代表値・相関係数・正規分布・基本統計量について計算する		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
物理学	梁取　春光	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

物理学の内容のうち，特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて学ぶ講義とまとめの演習

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①力学の基礎的な内容を理解することにより，生体での応用に結びつける力を養う	考え抜く力 知識・理解 論理的思考力

【履修上の注意】電卓を使用しても良いが，期末試験では使用できない．各自ファイルを準備する．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	物理学の概要	物理学の学習にあたって 物理史概論	個人
2	物理学の基礎知識Ⅰ	単位系　三角関数の計算	個人
3	物理学の基礎知識Ⅱ	ベクトルの取り扱い方	個人
4	等速運動、等加速度運動	等速直線運動での速度・時間・距離の関係 等加速度運動での速度・加速度・時間・距離の関係	個人
5	力の表し方、つりあい	力をベクトルの矢印で表わす 力のつりあいを作図し立式する	個人
6	仕事	仕事の定義と計算	個人
7	力学的エネルギー	重力による位置エネルギーと運動エネルギー	個人
8	力学的エネルギー保存	力学的エネルギー保存の計算	個人
9	剛体の力学	剛体を回転させる力 モーメントのつりあいの計算	個人
10	モーメントのつりあい	モーメントのつりあいの演習	個人
11	生体におけるモーメントⅠ	モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する	個人
12	生体におけるモーメントⅡ	モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する	個人
13	同演習	問題演習により力をつける	個人
14	放射線の基礎知識	放射線の種類と性質 放射線の人体に対する影響	個人
15	総合演習	まとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70% 課題の達成度 30%

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業内容の復習を行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
化学	廣重　淳雄	一般	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

自然科学の重要な学問のひとつである「化学」を学ぶことにより、日常生活を豊かにしている製品のもつ物質の本質を理解する。

【学習目標(到達目標)】

①医療関係に携わる学生に対し将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ばせる.

②科学思考を養うと共に生命を尊重する態度を育てる.

【受講して得られる力】

考え抜く力

知識・理解

論理的思考力

【履修上の注意】※　講義時は、必ずB5またはA4ｻｲｽﾞの大学ノート(横罫-A罫:7mm×30行)』を持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	化学	(1)物質の分類　1)混合物と純物質　2)化合物と単体 3)物質を構成する粒子　4)原子　5)原子量	個人
2	物質量	(1)　物質量　1)質量　2)体積　3)個数 (2)　原子の構造　(3)八偶子説	個人
3	原子力発電と原子爆弾	(1)原子力発電　1)放射性同位元素　2)放射線　3)原子量発電　4)放射性物質 (2)原子爆弾	個人
4	原子を構成する粒子	(1)原子を構成する主な粒子 (2)主な素粒子(基本物質)　1)中間子　2)中性微子	個人
5	化学の法則	(1)化学の主な法則 (2)化学の主な法則(練習問題)	個人
6	イオン	(1)イオンとイオンの生成　(2)単原子イオンと多原子イオン　1)イオンの価数 (3)最外殻電子と価電子　(4)周期律	個人
7	化学結合	(1)イオン結合とイオン結晶　(2)金属結合と金属結晶 (3)共有結合と共有結合の結晶	個人
8	酸と塩基	(1)酸と塩基　1)定義と性質　2)酸塩基の強弱　3)水の電離平衡 (2)pH　(3)中和反応と塩　(4)塩の加水分解　(5)塩の液性	個人
9	緩衝液	(1)緩衝液 (2)緩衝液の作用	個人
10	溶液と調整	(1)パーセント濃度　(2)モル濃度　(3)規定濃度 (4)(A＋B)(A:B)と(A→B)　(5)濃硫酸の希釈法	個人
11	参加と還元	(1)酸化と還元　(2)酸化数　(3)酸化剤・還元剤 (4)ボルタの電池　(5)電気分解と融解塩電解	個人
12	金属の性質	(1)金属のイオン化傾向　(2)金属の性質　(3)錆とメッキ　(4)合金	個人
13	水の硬度	(1)軟水と硬水　(2)硬度 (3)浸透圧　1)半透膜　2)細胞の成分　3)透析　(4)生理食塩水	個人
14	有機化学	(1)有機化合物　(2)高分子　1)合成高分子　(3)重合　1)付加重合　2)縮合重合 (4)高分子の構造と性質　(5)プラスチック　(6)プラスチックの利点と欠点	個人
15	繊維	(1)天然繊維　1)動物線維　絹・羊毛　2)植物繊維　綿・麻 (2)化学繊維　1)合成繊維　2)再生繊維　3)半合成繊維　4)無機繊維	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% レポート　10%

【教科書】	化学Ⅰ・Ⅱの新研究―理系大学受験―
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業内容の復習を自分で作成したノートを中心に行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
保健体育（体育）	薄　貴	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	（45）	講義・演習	2

【授業の概要・目的】
体育とは、健康の保持・増進と運動技術の向上を図る実践の場で、ネットを境界とする球技、人を相手とする球技および走・跳・投を有する屋外種目を通じて、個人的・集団的技能を習得し、さらにチームワークとしての自主性・積極性・協調性を育み、ルールの順守という社会的態度を育成する。また運動を実践し、心の健康を育む。

【学習目標（到達目標）】
①ストレッチ運動の方法を体験学習することにより、その主旨を理解し、主運動につなげることができる。
②種目運動を通じて、それぞれの技能を習熟したら、楽しさ・難しさ・ルールの大切さを学習することができる。
③安心・安全での正しい運動実践を目指し、器具・器材の準備・点検を心がけることができる。
④
⑤

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
態度・志向性

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	運動活動におけるオリエンテーション	1.ストレッチ運動の方法　2.太極拳健康運動の方法 3.活動時における取り組み方　4.器具・器材の安全管理	グループ
2	A：バレーボール	簡易ゲームによる個々人の技能確認 （高校時の部活動経験・実技体育を参考にして）	グループ
3		1.個人技能の練習を習得・・・グループ学習による サーブ・レシーブ・トス・スパイク等	グループ
4		2.集団技能の練習と習得 （1）投げ入れサーブ～レシーブの練習	グループ
5		（2）レシーブ～トス～スパイクという連携技能の習得 （3）実践に近い様式でのゲーム感覚による練習	グループ
6	ゲーム展開	1.男女別チームによるゲーム ・レシーブ技能の習得を最重点と理解（ゲームはレシーブから）	グループ
7		・チーム内の弱点を見つけ、どうカバーリングするか ・ゲームの組み立て方を確立する　・ポジションの役割の理解と実践	グループ
8		2.男女混合チームによるゲーム ・男女の基本的能力の差異を考えてゲーム・コントロール・カバーリング	グループ
9	B：バスケットボール	グループ学習による個人技能の練習と習得 ・パス…チェスト、バウンズ、ショルダー、オーバーヘッド	グループ
10		・ドリブル…チェンジオブペース、チェンジオブハンド、バッククロス ・シュート…ランニングシュート、ジャンプシュート	グループ
11		実践に近い様式での練習 ・3menブレークアウト：3on3ハーフコートプレイ	グループ
12	ゲーム展開	1.男女別でのゲーム （1）経験者の活用…チームリーダーとなる	グループ
13		（2）チーム・ディフェンスはどうするか…マンツーマンかゾーンか （3）楽しくゲームをするためには	グループ
14		・1：1で相手を抜く楽しみ ・ノーマークをいかに作って得点するか	グループ
15	まとめ	これまでのまとめと振り返りを行い、理解を深める。	グループ

期末試験	授業の取り組みを評価する	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	特に定めない
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
保健体育（保健）	薄井　俊介	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	（45）	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

医療職として、保健活動の知識は必須となる。この授業では成人保健活動や高齢者の保健活動、地域保健活動等について理解を深め、作業療法の業務の理解につなげる。

【学習目標（到達目標）】

①各種保健活動について理解することができる。
②保健活動とリハビリテーション職の関わりについて理解することができる。
③作業療法士の業務と保健活動の連携について考察できるようになる。
④
⑤

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
態度・志向性

【履修上の注意】 授業を聞くだけでなく、積極的に自分で調べることが必要となる。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	成人保健活動①	成人保健の動向と現状について 成人保健の理念や変遷について	個人
2	成人保健活動②	成人の生活と健康の特徴 生活習慣病と保健指導	個人
3	高齢者保健活動①	高齢者の生活と健康 高齢者の疾病予防と健康維持	個人
4	高齢者保健活動②	高齢者の生活機能低下の予防と健康維持 高齢者のケアシステム	個人
5	産業保健活動	産業保健の歴史と重点課題の変遷 主な健康問題と対策	個人
6	地域精神保健活動 障害者（児）保健活動	地域精神保健活動の実際とケアの技法、問題の理解とその背景 障害者（児）の保健福祉施策の概要、保健指導から自立への支援について	個人
7	難病保健活動・在宅ケア 感染症・災害時保健活動	難病保健の動向・施策、健康問題と保健指導、在宅ケアの理念と目的、制度・マネジメント 感染症保健活動の動向と施策、疾病管理、災害時の地域アセスメント、活動のポイント	個人
8	保健活動の実際	事例を通して、保健活動についてのまとめと振り返りを行う。	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
期末試験		評価方法	

【教科書】	
【参考書】	
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	

【本講義に関しての質問先】		【質問方法】	

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
外国語(英語)	Robert Holt	一般	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.

【学習目標(到達目標)】

Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.

【受講して得られる力】
考え抜く力
知識・理解
コミュンケーションスキル
統合的学習体験
態度・志向性

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1A – Hello	Verb be (singular): I and you. Numbers 0–10; days of the week.	個人・グループ
2	1B – Where are you from?	Verb be (singular): He, she and it. Countries.	個人・グループ
3	Practical English: How do you spell it?	The alphabet and spelling. Spelling practice.	個人・グループ
4	2A – We aren't English. We're American.	Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.	個人・グループ
5	2B – What's your phone number?	Wh– and How questions with be. Phone numbers; numbers 11–100.	個人・グループ
6	3A – What's in your bag?	Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary – small things.	個人・グループ
7	3B – Is that a hat?	This / That / These / Those. Vocabulary – Souvenirs.	個人・グループ
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?	Saying and understanding prices. The use of money and numbers.	個人・グループ
9	4A – Family and friends.	Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary – people and family.	個人・グループ
10	4B – Big cars or small cars?	Adjectives. Colours and common adjectives.	個人・グループ
11	5A – Breakfast around the world.	Present simple (+ / –): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.	個人・グループ
12	5B – A very long flight.	Present simple (?): I, you, we and they. Common verb phrases 1.	個人・グループ
13	Practical English: What time is it?	Telling the time. Saying how you feel.	個人・グループ
14	6A – She works for Armani.	Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.	個人・グループ
15	6B – A day in my life.	Adverbs of Frequency. A typical day.	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	English File – Beginner Student's Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	スペリング小テストの準備のための学習(数回)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
コミュニケーション論	高野　真一	一般	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義・演習	1

【授業の概要・目的】

対象者や他職種・上司等と「スムーズな人間関係を築く」こと、仕事をしていく上で「自己管理能力」は重要です。この科目では、挨拶・敬語・接遇・マナー・身のこなし・エチケット・好印象な話し方・人間関係づくり・自己管理の基本を習得します。

【学習目標(到達目標)】

① 誰とでもスムーズにコミュニケーションをとることができる。
② 社会人としての基本的マナーを身に付け、説明することができる。
③ チーム医療が求められる理由と現状について理解する。
④ 理学療法士、作業療法士のチームでの役割・業務・等について理解する。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
コミュンケーションスキル
態度・志向性

【履修上の注意】 普段の学校生活から人と積極的に関わり、スキルを磨きましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	当科目の進め方、参加の仕方について理解し、当科目で身につける個人目標を立てることができる。	個人
2	医療者になるための準備	医療者としての身だしなみについて理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
3	医療者になるための準備	医療者として、挨拶はなぜ必要かについて理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
4	社会人としてのマナー	接遇の基本、敬語の基本について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
5	臨床へ向けたコミュニケーション	対人交流における会話、表情の意義について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
6	臨床へ向けたコミュニケーション	対人交流における「聴く」と「聞く」について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
7	臨床へ向けたコミュニケーション	「声を出すこと」「話すこと」について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
8	チーム医療とは何か	人と人とが協働作業をする意義、チーム医療の意義について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
9	保健医療福祉における連携	保健医療福祉における多職種の活動と流れについて理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
10	専門職とは何か	専門職(本人、家族、医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士)の概念と役割について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
11	チームにおける専門職の役割	事例をもとにチーム医療における専門職の役割について理解し、そのポイントをまとめることができる。	ペア・グループ
12	グループワーク	グループワークを通じて，協働，連携活動に参加する。	ペア・グループ
13	グループワーク	グループワークを通じて，協働，連携活動に参加する。	ペア・グループ
14	グループワーク	グループワークを通じて，協働，連携活動メンバーとしての省察をする。	ペア・グループ
15	グループワーク	グループワークを通じて，協働，連携活動メンバーとしての省察をする。	ペア・グループ

期末試験	レポートによる	評価方法	レポート 60% 課題の達成度 20%	発表会の結果 20%

【教科書】	教科書はありません。作業療法概論指定の教科書など講義中に案内します。
【参考書】	特に無し。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 classroomにて事前に資料を配布します．予習に使用し，講義でも閲覧できるよう準備をし

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

2. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
解剖学Ⅰ(1/2)	薄井　俊介	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を構成し運動に関与する骨・筋の構造と機能の基本的内容を理解する。この講義での学習内容に他の科目の学習を加えることで臨床的思考を養い、「身体障害系リハビリテーション」の基本を身につける。

【学習目標(到達目標)】

①上肢を構成する骨と筋の構造を理解し、説明できる。
②理解した骨と筋の構造を、運動機能と関連付けて説明できる。
③筋と支配神経を、関節運動と関連付けて説明できる。
④
⑤

【受講して得られる力】
考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 講義毎の「小テスト」が評価に反映される。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	解剖学用語と人体の区分 骨格総論①	解剖学用語と人体の区分、骨の名称など、骨筋系の基礎を学び、今後の講義の理解につなげる。	個人
2	骨格総論②	骨の形態、骨の特徴を表す用語、骨の構造と機能について理解する。	個人
3	関節靭帯総論	骨の連結部分である関節と靭帯の構造と機能、分類について理解する。	個人
4	筋系総論	骨格筋と呼ばれる筋の一般的な構造と機能を学び、骨格筋の作用を理解する。	個人
5	上肢の骨・筋・関節①肩甲帯	肩甲帯を構成する骨と筋を確認し、肩甲帯の構造と機能を理解する。	個人
6	上肢の骨・筋・関節②肩関節～上腕	肩関節を構成する骨と筋を確認し、肩関節の構造と機能を理解する。	個人
7	上肢の骨・筋・関節③上腕～肘関節	肘関節を構成する骨と筋を確認し、肘関節の構造と機能を理解する。	個人
8	上肢の骨・筋・関節④肘関節～前腕	肘関節～前腕の骨と筋を確認し、前腕の構造と機能を理解する。	個人
9	上肢の骨・筋・関節⑤前腕～手根部	前腕～手根部の骨と筋を確認し、手関節の構造と機能を理解する。	個人
10	上肢の骨・筋・関節⑥手関節～手指	手関節～手の骨と筋を確認し、手関節および手指の構造と機能を確認する。	個人
11	上肢の骨・筋・関節⑦手指	手の中の骨と筋を確認し、手指の構造と機能を確認する。	個人
12	上肢の筋と神経支配①腕神経叢	腕神経叢の神経を確認し、筋の支配神経について理解する。	個人
13	上肢の筋と神経支配②腕神経叢	腕神経叢の神経を確認し、筋の支配神経について理解する。	個人
14	上肢のまとめ①	肩甲帯～上肢の骨・筋・支配神経について、グループ学習を通して理解を深める。	グループ
15	上肢のまとめ②	肩甲帯～上肢の骨・筋・支配神経について、グループ学習を通して理解を深める。	グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 小テスト 40%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学第5版(医学書院)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第3版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

【本講義に関しての質問先】		【質問方法】	

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
解剖学Ⅰ(2/2)	薄井　俊介	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】
人体を構成し運動に関与する骨・筋の構造と機能の基本的内容を理解する。また、骨や筋につながる神経や血管も学習する。この講義での学習内容に他の科目の学習を加えることで臨床的思考を養い、「身体障害系リハビリテーション」の基本を身につける。

【学習目標(到達目標)】
①頭部・体幹および下肢を構成する骨と筋の構造を理解し、説明できる。
②理解した骨と筋の構造を、運動機能と関連付けて説明できる。
③筋と支配神経を、関節運動と関連付けて説明できる。
④
⑤

【受講して得られる力】
考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 講義毎の「小テスト」が評価に反映される。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	頭部・顔面の骨・筋・関節①	頭部・顔面の骨と筋を確認し、頭部の構造と機能を理解する。	個人
2	頭部・顔面の骨・筋・関節②	頭部・顔面の骨と筋を確認し、頭部の構造と機能を理解する。	個人
3	体幹の骨・筋・関節①脊柱	脊柱を構成する骨と筋を確認し、頭部の構造と機能を理解する。	個人
4	体幹の骨・筋・関節②脊柱～骨盤	脊柱～骨盤を構成する骨と筋を確認し、脊柱～骨盤の構造と機能を理解する。	個人
5	下肢の骨・筋・関節①骨盤～股関節	骨盤～股関節を構成する骨と筋を確認し、骨盤～股関節の構造と機能を理解する。	個人
6	下肢の骨・筋・関節②股関節～大腿	股関節～大腿を構成する骨と筋を確認し、骨盤～股関節の構造と機能を理解する。	個人
7	下肢の骨・筋・関節③大腿～膝関節	大腿～膝関節を構成する骨と筋を確認し、大腿～膝関節の構造と機能を理解する。	個人
8	下肢の骨・筋・関節④膝関節～下腿	膝関節～下腿を構成する骨と筋を確認し、膝関節～下腿の構造と機能を理解する。	個人
9	下肢の骨・筋・関節⑤下腿～足関節	下腿～足関節を構成する骨と筋を確認し、下腿～足関節の構造と機能を理解する。	個人
10	下肢の骨・筋・関節⑥足関節～足部	足関節～足部を構成する骨と筋を確認し、足関節～足部の構造と機能を理解する。	個人
11	体幹・下肢の筋と支配神経①	体幹・下肢の神経を確認し、筋の支配神経について理解する。	個人
12	体幹・下肢の筋と支配神経②	体幹・下肢の神経を確認し、筋の支配神経について理解する。	個人
13	頭部・顔面のまとめ	頭部・顔面の骨・筋・支配神経について、グループ学習を通して理解を深める。	グループ
14	体幹のまとめ	体幹の骨・筋・支配神経について、グループ学習を通して理解を深める。	グループ
15	下肢のまとめ	下肢の骨・筋・支配神経について、グループ学習を通して理解を深める。	グループ
期末試験	定期試験	評価方法	筆記試験 60% 小テスト 40%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学第5版(医学書院)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第3版(日本医事新報)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	
【本講義に関しての質問先】	【質問方法】

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
解剖学Ⅱ(1/2)	高野　真一	一般	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法士は”生きている人の動作、生活”を扱う。動きを司令する神経系、動きを感知する感覚器系、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および消化器系などの内蔵器系の構造について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

① 神経系、感覚器系の基本的な構成について理解する。
② 循環器系(体循環・肺循環、動脈・静脈、心臓など)の基本的な構造について理解する。
③ 内蔵学(消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の基本的知識を理解する。
④ 人体に対し臓器の位置関係をまとめ、説明することができる。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】講義時間外でも質問を積極的に受付けます。「分からないこと」を残さないよう、自分から行動しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	解剖学総論1	解剖学の目的、人体の大要と構成について説明することができる。	個人
2	解剖学総論2	人体の構成および人体の発生について説明することができる。	個人
3	神経学総論	神経系の基本的な構成について説明することができる。(keyword:神経系の区分，神経組織・線維，神経系の構成と発生)	個人
4	中枢神経系1	脊髄、脳幹の構造について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:中枢神経・脊髄の区分，脊髄の断面，脳幹の区分)	個人
5	中枢神経系2	小脳の構造について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:小脳の区分，小脳脚，内部構造，小脳の出入力)	個人
6	中枢神経系3	大脳，終脳の構造について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:大脳半球の区分，大脳皮質と髄節，大脳皮質の機能局在)	個人
7	中枢神経系4	神経路の特徴について理解し、その特徴を説明することができる。　(keyword:上行性，下行性)	個人
8	末梢神経系1	脊髄神経の走行および機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:神経節，皮節，各種神経叢)	個人
9	末梢神経系2	脳神経の走行と機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:神経核，運動性，感覚性，混合性)	個人
10	末梢神経系3	自律神経系の構成と機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:交感神経系，副交感神経系，壁内腸神経系)	個人
11	感覚器系1	外皮の基本構造について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:皮膚の構造，皮膚の感覚器，皮膚腺)	個人
12	感覚器系2	視覚器，平衡聴覚器，嗅覚器，味覚器の構造について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:眼球，外耳，中耳，内耳，前庭，骨半規管，蝸牛管)	個人
13	内蔵学	内臓の定義と器官の種類について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:五臓，六腑，胸部・腹部の配置)	個人
14	循環器系1	体循環と肺循環，心臓壁の構造と心室と心房の形態的特徴について理解しm、その特徴を説明することができる。(keyword:)	個人
15	循環器系2	脈管系の基本的構造，循環系の分類について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:大動脈，全身の動脈系，皮静脈，門脈，奇静脈，リンパ系)	個人
期末試験	前期期末試験	評価方法　筆記試験 60%　小テスト 20%　受講態度 20%	

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版)、ぜんぶわかる脳の辞典成美堂出版)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第3版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】事前学習動画とワークシートを用います。復習にも活用してください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
解剖学Ⅱ(2/2)	高野　真一	一般	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法士は”生きている人の動作、生活”を扱う。動きを司令する神経系、動きを感知する感覚器系、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および消化器系などの内蔵器系の構造について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

① 神経系、感覚器系の基本的な構成について理解する。
② 循環器系(体循環・肺循環、動脈・静脈、心臓など)の基本的な構造について理解する。
③ 内蔵学(消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の基本的知識を理解する。
④ 人体に対し臓器の位置関係をまとめ、説明することができる。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】講義時間外でも質問を積極的に受付けます。「分からないこと」を残さないよう、自分から行動しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	前期の復習	前期の学習内容について振り返り、各ポイントについて説明・回答することができる。(keyword:記述, 口頭試問)	個人
2	呼吸器系1	発声に関与する喉頭について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:鼻(外鼻・鼻腔), 咽頭, 喉頭(喉頭軟骨・喉頭筋・喉頭腔))	個人
3	呼吸器系2	ガス交換に関与する肺について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:気管・気管支, 肺)	個人
4	消化器系1	嚥下に関与する構造体と機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:口腔, 咽頭, 食道, 胃)	個人
5	消化器系2	胃や腸の特徴と機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:, 小腸(十二指腸・空腸・回腸), 大腸(盲腸・結腸・直腸))	個人
6	消化器系3	肝臓および膵臓の機能および腹腔内における位置関係について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:肝臓, 胆嚢, 膵臓, 腹膜)	個人
7	泌尿器系1	尿の産生に関わる腎臓について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:腎臓の構造(腎小体, 傍糸球体装置, 尿細管), 尿生成の仕組み)	個人
8	泌尿器系2	尿を運ぶ経路の構成について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:尿管, 膀胱, 尿道)	個人
9	生殖器系1	男性生殖器の構造と機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:精巣, 男性ホルモン, 精巣上体, 精管, 男性外生殖器, 障害者の性機能)	個人
10	生殖器系2	女性生殖器の構造と機能について理解し、その特徴を説明することができる。(keyword:卵巣, 卵巣ホルモン, 卵管, 子宮, 膣, 女性外陰部, 妊産婦リハ)	個人
11	内分泌系1	内分泌系の働きについて理解し、その特徴を説明することができる。　(keyword:各種ホルモンと分布の場所, 作用)	個人
12	内分泌系2	内分泌系の働きについて理解し、その特徴を説明することができる。　(keyword:各種ホルモンと分布の場所, 作用)	個人
13	内臓系のまとめ1	内臓器官の位置を体表へ投影し説明することができる.	個人
14	内臓系のまとめ2	内臓器官の位置を体表へ投影し説明することができる.(keyword:消化器系、呼吸器系)	個人
15	内臓系のまとめ3	内臓器官の位置を体表へ投影し説明することができる.(keyword:泌尿器系)	個人
期末試験	後期期末試験	評価方法　筆記試験 60%　小テスト 20%　受講態度 20%	

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版)、ぜんぶわかる脳の辞典成美堂出版)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第3版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】事前学習動画とワークシートを用います。復習にも活用してください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
人体の構造と機能 ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸	病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

解剖学・生理学・運動学といった基礎医学の領域は、各論の理解だけでなく、系統的かつ統合的な理解が重要である。本講義では、基礎医学の統合を目的にリハビリテーション領域において重要な人体の構造と機能の理解を深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①生体の恒常性維持について説明できる	考え抜く力
②神経系による運動制御機構について説明できる	知識・理解
③生体での運動に関与する構造と身体の巧妙な運動機能を説明できる	統合的学習体験
④生体についての基礎医学分野を横断的に説明できる	論理的思考力
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	概論	リハビリテーションにおける基礎医学の役割を説明する.	グループ
2	神経系	神経の構造と機能について説明する. 中枢神経系,末梢神経系,自律神経系について説明する.	グループ
3	感覚と受容器	特殊感覚, 体性感覚, 内臓感覚について説明する. 身体の各種受容器について説明する.	グループ
4	骨・関節・靭帯	骨・関節の構造と機能について説明する. 人体による補強と関節運動の制限について説明する.	グループ
5	筋と代謝	筋の構造と機能について説明する. 運動エネルギーの代謝機序について説明する.	グループ
6	上肢の運動学	上肢帯, 肩, 肘, 手関節などの運動を説明する.	グループ
7	下肢の運動学	下肢帯, 股, 膝, 足関節などの運動を説明する.	グループ
8	歩行	歩行を質的に説明する. 歩行の関節運動や筋活動について説明する.	グループ
9	運動学習	運動学習の理論について説明する.	グループ
10	内分泌（ホルモン）	ホルモンの分泌器官, とそれぞれの機能について説明する.	グループ
11	循環器	循環器の構造と心拍の調整機構について説明する.	グループ
12	呼吸器	呼吸器の構造と機能について説明する.	グループ
13	消化と吸収	消化と吸収の構造と機能について説明する.	グループ
14	泌尿器	泌尿器の構造と機能について説明する.	グループ
15	まとめ	本講義のまとめを行い, 基礎医学とリハビリテーションの関係について説明する.	グループ
期末試験	ポートフォリオの提出	評価方法	受講態度 20% レポート 80%

【教科書】	解剖学・運動学・生理学の指定教科書
【参考書】	カラー図解　人体の正常構造と機能
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	配布する学習課題の予習と復習に取り組むようにしてください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
生理学Ⅰ	羽川　孝幸	一般	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

生理学は正常な生体の機能に関する学問である。生命を維持として、呼吸、循環、消化吸収、排泄、そして調節する内分泌や自律神経系の機能について学習する。

【学習目標（到達目標）】

①生命を維持する機構を説明できる.
②各種器官系の調節メカニズムについて理解し，説明できる.
③リハビリテーションにおける生理学的影響(リスク)を説明できる.
④
⑤

【受講して得られる力】
考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	生理学Ⅰ(植物機能)総論	OTと生理学の関わりを理解する. 組織について説明する.	
2	血液	体液と血液の成分と働きについて理解する. 免疫と血液型について説明する.	
3	循環器系1	心臓の構造と機能について理解する. 心臓の仕組みを説明する.	
4	循環器系2	心臓の刺激伝導系を理解する. 心臓の調節，収縮，心電図について説明する.	
5	循環器系3	循環調節の種類と仕組みについて説明する. 動静脈，微小循環について説明できる.	
6	リンパ系	循環器系の補助機関であるリンパ系を理解する. リンパ系の仕組みと働きを説明する.	
7	呼吸器系1	肺，気道の構造と機能について説明する. 呼吸運動とその調節機構，ガス交換について説明する.	
8	呼吸器系2	呼吸に伴う胸郭運動，胸式・腹式呼吸について理解する. 循環に伴う血液でのガスの運搬について理解する.	
9	消化器系1	上部消化管の構造，機能，運動について説明する. 消化器系付属器官(肝臓，膵臓など)について説明する.	
10	消化器系2	下部消化管の構造，機能，運動について説明する. 消化管の分泌，栄養素の分解，吸収，排泄について理解する.	
11	代謝	基礎代謝について理解する. エネルギー代謝の仕組みについて誓いする.	
12	泌尿器系	腎臓の構造と機能，糸球体濾過，尿細管の機能を説明する. 尿と体液の調節，排尿のしくみについて説明する.	
13	内分泌系	内分泌の機能について理解する. 人体に対するホルモンの作用について理解する.	
14	自律神経	自律神経の機能について理解する. 臓器に対する自律神経の作用について理解する.	
15	まとめ	講義の要点について確認する.	
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 80% レポート 20%

【教科書】	生理学テキスト第8版　文光堂
【参考書】	カラー図解　人体の正常構造と機能　第2版
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習課題を事前に提出すること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
生理学Ⅱ(1/2)	田中絹代	一般	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

生体の運動がなぜ・どのように起こるのか，神経生理学的観点から理解する。国家試験の基礎医学科目に該当する為、個人、ペア、グループ活動を取りいれ、知識の確実な定着を目指します

【学習目標(到達目標)】

①生体に生ずる興奮・伝導・収縮について筋・神経系の構造と原理から説明できる.

②筋の種類と特徴、および筋の収縮機序について説明できる

③人体の運動がどのように起こるのか、機序のついて説明できる。

【受講して得られる力】

専門職としてのｽｷﾙ・意識

考え抜く力

知識・理解

態度・志向性

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生理学の基礎①	生体の行動と生理学の接点について関心を持つ	個人・ペア
2	生理学の基礎②	ホメオスタシス、生物の発生、DNAについて説明できる	個人・ペア
3	細胞の興奮発生と興奮伝導①	細胞の基本的構造と機能について説明できる 神経細胞(ニューロン)の構造について説明できる	個人・ペア
4	細胞の興奮発生と興奮伝導②	静止膜電位，活動電位について説明できる	個人・ペア
5	細胞の興奮発生と興奮伝導③	シナプスの構造と興奮の伝達について説明できる	個人・ペア
6	筋の収縮①	筋の種類(骨格筋，心筋，平滑筋)と特徴について説明できる 骨格筋の構造(筋線維，筋原線維など)について説明できる	個人・ペア
7	筋の収縮②	骨格筋の筋収縮の仕組み(興奮−収縮連関)について説明できる	個人・ペア
8	筋の収縮③	骨格筋の筋収縮のエネルギーについて説明できる 平滑筋，心筋の構造と筋収縮の仕組みについて説明できる	個人・ペア
9	前半の振り返りとまとめ	細胞の活動電位の発生と伝導、シナプス伝達、筋の収縮機序について、グループ活動を通して理解を深める	個人・グループ
10	運動機能①	運動機能の概要(反射～随意運動)について説明できる	個人・ペア
11	運動機能②	骨格筋の感覚器(筋紡錘，ゴルジ腱器官)について説明できる	個人・ペア
12	運動機能③	脳幹の構造と機能，脳幹における体性運動反射について説明できる 小脳の構造と機能について説明できる	個人・ペア
13	運動機能④	大脳基底核の構造と機能について説明できる	個人・ペア
14	運動機能⑤	大脳皮質運動野の構造と運動調整機序について説明できる 運動神経の伝導路について説明できる	個人・ペア
15	全体の振り返りとまとめ	運動機能についてグループ活動を通して理解を深める	個人・グループ
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 90% 授業への貢献 10%

【教科書】	生理学テキスト第8版　文光堂、ぜんぶわかる 脳の辞典　成美堂出版
【参考書】	ぜんぶわかる 人体解剖図　成美堂出版、 カラー図解 人体の正常構造と機能　第2版

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各項目ごとの予習と復習		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
生理学Ⅱ(2/2)	田中絹代	一般	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

ヒトの運動や行動がなぜ・どのように起こるのか，神経生理学的観点から理解する。国家試験の基礎医学科目に該当する為、個人、ペア、グループ活動を取りいれ、知識の確実な定着を目指します

【学習目標(到達目標)】

①自律神経系の機能について説明できる

③感覚の種類、感覚器の構造と機能について説明できる

③中枢神経系の高次機能について説明できる

【受講して得られる力】

専門職としてのｽｷﾙ・意識

前に踏み出す力

知識・理解

態度・志向性

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	前期の復習	前期の学習内容について説明できる	個人・ペア
2	自律神経系と内臓機能①	自律神経系の構成と自律神経支配の特徴について説明できる 交感神経と副交感神経の作用について説明できる	個人・ペア
3	自律神経系と内臓機能②	自律機能の反射性調整と中枢について説明できる	個人・ペア
4	感覚機能の構成と機能①	感覚の種類と感覚の一般的性質について説明できる	個人・ペア
5	感覚機能の構成と機能②	体性感覚の種類，受容器の構造と機能について説明できる 体性感覚の伝導路について説明できる	個人・ペア
6	感覚機能の構成と機能③	嗅覚と味覚受容器の構造と機能，伝導路について説明できる	個人・ペア
7	感覚機能の構成と機能④	聴覚器・前庭感覚器の構造と機能について説明できる 聴覚・前庭感覚刺激受容の機序と伝導路について説明できる	個人・ペア
8	感覚機能の構成と機能⑤	視覚器の構造と機能について説明できる 視覚刺激受容の機序と伝導路について説明できる	個人・ペア
9	前半の振り返りとまとめ	自律神経、感覚器の機能。伝導路についてグループ活動を通して理解を深める	個人・グループ
10	中枢神経系の高次機能の概要	中枢神経系の構成と高次機能の概要について説明できる 大脳皮質の機能局在と統合機能について説明できる	個人・ペア
11	覚醒と睡眠	覚醒と睡眠について脳幹網様体の機能から説明できる 覚醒時と睡眠時の脳波，異常脳波について説明できる	個人・ペア
12	学習と記憶	情動と動機づけについて大脳辺縁系と視床下部の機能から説明できる	個人・ペア
13	情動と動機づけ	情動と動機づけについて大脳辺縁系と視床下部の機能から説明できる	個人・ペア
14	運動生理	運動に伴う全身の変化について植物機能生理学の知識と統合して説明できる	個人・ペア
15	全体の振り返りとまとめ	ヒトの行動の機序についてグループ活動を通して理解を深める	個人・グループ
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 90% 授業への貢献 10%

【教科書】	生理学テキスト第8版　文光堂、ぜんぶわかる 脳の辞典　成美堂出版
【参考書】	ぜんぶわかる 人体解剖図　成美堂出版、 カラー図解 人体の正常構造と機能　第2版

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各項目ごとの予習と復習		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
生理学実習	OT学科教員	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

人体の機能について実験的に学ぶ。自分自身あるいは同級生を対象にして、感覚系や運動系あるいは循環や呼吸などの機能に関する基礎を習得することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①資料等を基に、実習遂行に必要な知識を整理することができる。 ②各種機器等の取り扱い方などを学ぶ。 ③生体の法則および生理学的背景を理解する。 ④実験結果をまとめる作業を行うことで、生理学講義内容を再確認し理解を深める。 ⑤	考え抜く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 統合的学習体験 論理的思考力

【履修上の注意】 対象者を持つ実習の第一弾であり、緊張感を持って実習に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 薄井	実習の進め方、グループ学習について説明を受け、実習の準備を進める。	個人
2	事前課題のまとめ方 薄井	テーマ毎に提示された事前学習課題について、調べ、まとめ学習を進める。	個人
3	A-1 肺活量測定 羽川	呼吸数の測定:安静時・体位変換時・運動負荷時に対し、スパイロメーターによる測定を行う。	グループ
4	A-2 肺活量測定 羽川	安静時の呼吸回数と、体位変換や運動負荷が呼吸回数に及ぼす影響を調べ、呼吸機能の神経性調節の仕組みを理解する。	グループ
5	A-3 肺活量測定 羽川	スパイロメーターを用いて呼吸機能の測定を行い、測定項目の意味を理解する。	グループ
6	B-1 心電図解析 薄井	心電図測定:標準12誘導心電図を記録し、心臓の電気的興奮の発生を理解する。	グループ
7	B-2 心電図解析 薄井	心電図解析:12誘導の方法、心電図の波形の意味を理解する。	グループ
8	B-3 心電図解析 薄井	心電図実証解析:グループでの電極移行での心電図変化から、生理学的背景を理解する。	グループ
9	C-1 表面筋電図 高野	筋電図測定と解析の意義、実施方法、使用機器の構成について理解する。	グループ
10	C-2 表面筋電図 高野	測定実証:グループにて測定を実施する。	グループ
11	C-3 表面筋電図 高野	測定結果の解析:測定から得られた結果を解析・解釈する方法を理解する。	グループ
12	D-1 循環(心拍・血圧)解析 田中	触診法および聴診法での血圧測定、とう骨動脈触知による脈拍測定の方法を学習する。	グループ
13	D-2 循環(心拍・血圧)解析 田中	安静状態および体位変換による血圧・心拍数の観察・測定し、神経性調節の仕組みを理解する。	グループ
14	D-3 循環(心拍・血圧)解析 田中	安静状態および体位変換による血圧・心拍数の観察・測定し、神経性調節の仕組みを理解する。	グループ
15	課題レポートのまとめ 薄井	テーマ毎に提示されたレポート課題について、まとめ作業を進める。進捗状況に合わせた教員からの指導を含める。	個人
期末試験	テーマごとの課題提出	評価方法 課題の達成度 100%	

【教科書】	特に定めない。
【参考書】	テーマごとに、教員が紹介した書籍や図書室の書籍を使用すること。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、生理学の学習内容が基礎となる。教科書、資料などを活用すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅰ（1/2） ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井　純子		病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動学は、国家試験科目においては、基礎医学の柱のひとつであり、学ぶ目的を常に意識しながら、その基本を理解する。
前期においては、上肢の動きについて解剖学知識を含め理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①運動学とは何かを説明できる。 ②生体力学の基礎について理解し、関節や筋の動きについて説明できる。 ③上肢の動きについて、解剖学知識を含めて説明できる。 ④ ⑤	前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力

【履修上の注意】解剖学・生理学などについても確認のうえ、授業に臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション、運動学とは	運動学とは何か(運動学の基礎、運動学を学ぶ目的)。基本肢位、関節運動に関する基本用語を理解する。	個人
2	生体力学の基礎 ①	身体運動の基本肢位(面と軸)について理解する。運動学的分析における生体力学の基礎について理解する。	個人
3	生体力学の基礎 ②	モーメントについて理解する。(バランスの安定性)　運動法則を理解する。(慣性の法則、作用―反作用の法則)	個人
4	生体力学の基礎 ③	力学的エネルギー(運動と位置エネルギー)や、てこの種類について理解する。(第1のてこ、第2のてこ、第3のてこ)	個人
5	関節の構造と機能	関節の構造について理解する。(関節の構成組織と分類) 関節の運動について理解する。(関節の動きとその働き)	個人
6	筋の収縮	筋の収縮について理解する。(求心性、遠心性、等尺性) 筋の働きについて理解する。(動筋、拮抗筋、2関節筋)	個人
7	姿勢	姿勢とその制御機構について理解する。 様々な姿勢について解剖学的・運動学的に理解する。	個人
8	上肢帯と上肢の運動 ①	上肢帯と上肢の解剖学的特徴について理解する。 上肢帯と肩関節周囲の骨について理解する。	個人
9	上肢帯と上肢の運動 ②	上肢帯と肩関節の動きについて運動学的用語で理解する。上肢帯に付着する筋の作用について理解する。	個人
10	上肢帯と上肢の運動 ③	肩関節の運動の特徴と運動方向の名称を理解する。 肩関節に付着する筋の作用について理解する。	個人
11	肘関節と前腕の運動 ①	肘関節を構成する骨と靭帯について理解する。肘関節の特徴と運動方向の名称を理解する。(肘角、運搬角など)	個人
12	肘関節と前腕の運動 ②	肘関節に作用する筋の働きについて理解する。（運動の速さに有利な筋、トルクの発生に有利な筋、緊急時の筋)	個人
13	手関節と手の運動 ①	手関節および構成している骨の名称を理解する。 解剖学的特徴を理解する。(手根骨、骨の配列、神経など)	個人
14	手関節と手の運動 ②	手関節および手指の運動の名称について理解する。 各関節の名称を理解する。	個人
15	手関節と手の運動 ③	手関節と手指の筋と作用について理解する。 手や指の変形について理解する	個人

期末試験	筋記試験	評価方法	筋記試験　90% 小テスト　10%

【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一(著) 医歯薬出版
【参考書】	ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄(著) 成美堂出版

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて　　提出ノートに記入

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅰ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井　純子		病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動学は、国家試験科目(基礎医学)のひとつであり、後期では、下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め身につける。　　また、歩行、運動発達、運動処方、運動学習についても理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①下肢と体幹、顔面の動きなどについて解剖学的知識を含め説明できる。 ②身体運動を運動学的表現を使って説明できる。(運動分析、動作分析) ③歩行、運動発達、運動処方、運動学習について理解できる。 ④ ⑤	前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	下肢帯と下肢の運動	下肢帯と下肢の解剖学的特徴について理解する。 下肢帯と下肢の運動について理解する。	個人
2	股関節の運動	股関節を構成する骨と靭帯について理解する。 股関節の特徴と運動方向の名称を理解する。	個人
3	膝関節の運動	膝関節を構成する骨と靭帯について理解する。膝関節の特徴と運動方向の名称を理解する。(生理的外反)	個人
4	足関節(足部)の運動 1	足関節を構成する骨と靭帯について理解する。(足根骨) 足関節の特徴と運動方向の名称を理解する。	個人
5	足関節(足部)の運動 2	足関節の運動に関与する筋について理解する。 足のアーチや足の変形について理解する。	個人
6	頸部の運動	頸椎の関節、靭帯について理解する。 頸部の運動の特徴と筋の作用について理解する。	個人
7	胸部の運動	胸椎と胸郭の関節、靭帯について理解する。 呼吸の種類と筋活動について理解する。	個人
8	腰部の運動	腰椎の関節、靭帯について理解する。 腰部の運動の特徴と筋の作用について理解する。	個人
9	頭部と顔面の運動	頭部および顔面の解剖学的特徴を理解する。 頭部および顔面の運動(特に咀嚼筋)について理解する。	個人
10	運動と動作の分析 1	運動分析に用いる専門用語について理解する。運動分析に用いる専門用語を用いて運動分析を理解する。	個人
11	運動と動作の分析 2	運動分析に用いる専門用語について理解する。運動分析に用いる専門用語を用いて運動分析を理解する。	個人
12	体力と運動処方	運動に必要なエネルギーについて理解する。 運動処方の基準について理解する。	個人
13	歩行と走行 1	正常歩行の用語、歩行周期について理解する。正常歩行の関節運動、筋活動、床反力について理解する。	個人
14	歩行と走行 2	異常歩行パターンについて理解する。 歩行についてその特徴を理解する。	個人
15	運動発達と運動学習	乳幼児の歩行パターンや学習曲線について理解する。運動学習と運動機能、パフォーマンスについて理解する。	個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 小テスト 10%

【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一(著) 医歯薬出版
【参考書】	ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄(著) 成美堂出版
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて　　提出ノートに記入

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間発達学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代		肢体不自由児施設(作業療法士)22年勤務	田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

新生児から高齢者まで広範にわたるリハビリテーションの対象者の支援につなげるため，人間発達の過程を体系的(年齢別，および領域別)に学習する。国家試験科目に該当するため、ペア・グループ活動を通して知識の定着を目指します。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①人間の発達をライフサイクルという視点に立って理解し，各発達時期の特徴について説明できる	知識・理解
②身体，運動，認知，心理，社会性など領域別の発達過程と特徴について説明できる	態度・志向性
③領域間の発達の関連性を理解し，説明できる	論理的思考力
④代表的な発達検査と特徴について習得する	態度・志向性

【履修上の注意】 講義中は頻繁に発言を求めます．予習と復習を怠らないこと

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	総論	人間発達について，発達段階、発達要因，基本原則，臨界期などの視点から説明する	個人・ペア
2	人間発達の諸理論	フロイト，エリクソン，ピアジェなどの発達理論を理解し，説明する	個人・ペア
3	身体運動機能－身体構造の発達	胎児期から老年期の身体構造の発達について理解する	個人・ペア
4	身体運動機能－粗大・微細運動の発達	胎児期から老年期の粗大運動・微細運動の発達について理解する	個人・ペア
5	身体運動機能(反射・反応)①	脳神経機能の変化と反射・姿勢反応の発達の関連について理解する	個人・ペア
6	身体運動機能(反射・反応)②	原始反射と姿勢反射の意義、出現時期・消失時期について理解し、説明する	個人・ペア
7	身体機能(内部・生理機能)	循環や呼吸など内部・生理機能の発達について理解する	個人・ペア
8	感覚・認知機能の発達	感覚・知覚・認知の発達について理解する	個人・ペア
9	言語機能の発達	言語機能の発達について理解する	個人・ペア
10	心理・社会性の発達	心理・社会的機能の発達について理解する	個人・ペア
11	発達の見方と発達検査	代表的な発達検査について理解する	個人・ペア
12	身体構造・心身機能の発達関係と整理・統合	発達段階に沿って、身体構造・心身機能の発達関連について整理する	グループ
13			
14		発達検査と照らし合わせて、各領域の発達について理解を深める	グループ
15	全体のまとめ	人間発達についてまとめる	個人

期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 70% 小テスト 20%	授業への貢献 10%

【教科書】	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ　人間発達学テキスト　南江堂 母子手帳
【参考書】	適時紹介します
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
公衆衛生学概論	吉田 久美	一般	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

集団レベルでの「健康」を維持するための方策を理解し，地域社会で展開されている公衆衛生活動を理解します．また標準予防策をはじめとする感染症対策の知識および技術を習得します．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①公衆衛生の歴史を学び基本的な考え方が理解できる． ②一次予防・二次予防・三次予防の具体的な内容が理解できる． ③地域社会で展開されている地域保健・保健行政を理解し作業療法士の役割を認識できる． ④老人保健・精神保健・産業保健・環境保健について理解できる． ⑤感染症の種類や予防策を学び標準予防策を実践できる．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】 毎回，コメントペーパーを提出して頂き「理解度」を確認します．能動的に学んでください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	公衆衛生学概論	公衆衛生誕生の歴史が説明できる．公衆衛生に必要な要素・実践方法・役割を理解し説明することができる．	個人
2	疾病予防と健康管理	疫学調査の必要性と活用法を理解できる．「健康」を測る指標について理解し作業療法との関連を説明する．	個人
3	疾病予防の実践①	一次予防・二次予防・三次予防の概念と具体的な内容を理解し説明することができる．	個人
4	疾病予防の実践②	感染症・循環器疾患・糖尿病・高血圧・がんについて実践されている予防策を調べ説明することで理解を深める．	グループ
5	地域保健・保健行政	地域保健における保健所の役割や機能について理解し，作業療法との連携について説明できる．	個人
6	老人保健・精神保健	老人保健・福祉と精神保健福祉における取り組みを理解し，作業療法の果たす役割を理解する準備ができる．	個人
7	産業保健・国際保健医療	労働災害や職場における健康管理について理解できる．国際医療分野での作業療法の果たす役割が理解できる．	個人
8	環境保健	物理的・化学的・生物学的環境要因について理解できる．環境問題について理解しその対策を説明できる．	グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験 吉田	評価方法	筆記試験 50% 受講態度 10%	小テスト 40%

【教科書】	シンプル衛生公衆衛生学2021(南江堂)
【参考書】	国民衛生の動向 厚生統計協会，厚生労働省ホームページ

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回，予習Key Word(5つ程度)のミニテストがあります．予習して臨んでください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
リハビリテーション医学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　俊介1) / 薄井純子2) 1)病院(作業療法士)11年勤務 2)病院(作業療法士)6年勤務	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

リハビリテーションの理念や意義を理解し、様々な観点から現在のリハビリテーションの位置づけとリハ専門職の役割について概説する。またリハ職が関わる疾患および障害の理解を促し、具体的対応について講義とグループワークを行う。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①リハビリテーションの理念や意義、専門職としての役割を理解する。 ②障害と病気の問題解決方法としてのリハビリテーションを理解する。 ③各疾患・障害に対するリハビリテーションアプローチについて理解する。 ④文献を用いて調べ、まとめる方法を身に付ける。 ⑤	考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】講義を聴くだけでなく、能動的な学習方法を身につけることが必要になる。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	リハビリテーションとはなにか	リハビリテーションの理念と歴史、意義、医療・保健・社会福祉との関わりについて理解する。	個人
2	障害の定義 ADLとIADL、ICIDHとICF	日本における障害の定義、ADL、IADLの意味、ICFに基づくリハビリテーションを理解する。	個人
3	チーム・リハビリテーション 各ステージにおけるリハビリテーション	チーム・リハビリテーションと、病期に対応したリハビリテーションについて理解する。	個人
4	装具・義肢・車椅子 リスク管理	様々な移動手段について理解する。リハビリテーションにおけるリスク管理について理解する。	個人
5	法制度・地域包括ケアシステム	医療・福祉に関する法制度の基本や、地域リハの重要性や地域包括ケアシステムについて理解する。	個人
6	障害別リハビリテーション①	「関節拘縮と関節可動域訓練」、「筋力低下と筋力増強訓練」、「運動麻痺」について理解する。	個人
7	障害別リハビリテーション②	「内部障害」、「意識障害」について理解する。	個人
8	障害別リハビリテーション③	「高次脳機能障害」、「言語機能障害」、「心理社会的障害」について理解する。	個人
9	障害別リハビリテーション④	「摂食嚥下障害」、「排泄機能障害」、「視覚障害」について理解する。	個人
10	疾患別リハビリテーション①	神経疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
11	疾患別リハビリテーション②	整形外科疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
12	疾患別リハビリテーション③	内科疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
13	疾患別リハビリテーション④	その他疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
14	疾患別リハビリテーション⑤	各グループで調べた内容をスライドにまとめ、発表を行う。	グループ
15	疾患別リハビリテーション⑥	各グループで調べた内容をスライドにまとめ、発表を行う。	グループ

期末試験	筆記試験 グループワークの発表	評価方法	筆記試験 50% 発表会の結果 50%

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 リハビリテーション医学 (羊土社)
【参考書】	特に定めない。他の基礎科目の教科書を参考にすること。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】前半は講義後の復習を中心に行うこと。後半はグループワークとなる。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
看護・介護概論	榆　恵子	一般	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

医療・福祉の現場において、多くの専門職が連携を図り、一人ひとりが健康に暮らすことを支えるために協業している。職場において連携を図ることの多い看護・介護の専門職の役割を理解する。

【学習目標(到達目標)】

①看護・介護の専門職の歴史と役割を知り、専門職の連携を考えることができるようになる。
②人間の(暮らす・人生)を考えることができるようになる。
③医療・福祉サービスを安全に安心して利用できる環境の利用方法を考えることができるようになる。
④
⑤

【受講して得られる力】
チームで働く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性

【履修上の注意】 配布資料をファイルなどにまとめておくこと

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	看護・介護概論 榆　恵子	対人援助職にとっての出会い 看護・介護の歴史を知る	個人
2	高齢者の暮らし 奥川　孝子	1920年から1990年代の生活を理解する 後期高齢者の暮らしを理解する	個人
3	安全に生活する環境を考える 松川　喜子	居室の整え方とベッドメーキング	個人
4	地域での生活環境を整える 三森　沙織	介護支援専門員の役割と生活環境の整え方を理解する 福祉用具の利用方法を知る	個人
5	感染防止と医療における清潔とは 渡辺　千香	医療における清潔を理解する 院内・施設内感染防止の原則を理解する	個人
6	チームアプローチ 戸室　真理子	多職種連携を考える	個人
7	いきる、いのち 戸室　真理子	ターミナルケア・グリーフケアを知る いきる(クラス・人生)を考える	個人
8	まとめ 清水　千世	これまでの内容の振り返りを行い、知識・理解を深める。	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	特に定めない
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義内容の復習を怠らないこと

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

3. 専門分野

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
基礎作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸	病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法の最大の特徴である「作業（活動・生活行為）」に焦点を当てる専門職としての基礎について理解する. Occupyの意味, 作業療法の土台となる基礎学問を理解し, 応用科学としての作業療法について実技を通じて理解する.

【学習目標（到達目標）】

①作業療法の基礎学問となる作業科学について理解できる.
②作業療法の関連学問である各種学問について理解できる.
③対象となる人の動作や作業を分析して説明できる.
④作業活動を実際に行い, 作業が人に与える身体・心理の影響, 癒やしの機序を説明できる.
⑤

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
コミュンケーションスキル

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	障害者とリハビリテーションの歴史	障害者の存在の歴史を理解し, リハビリテーションという言葉の意味を理解する.	個人・グループ
2	作業療法の成り立ち	作業療法の生まれた背景, 歴史を理解し, 現代までにどのような変遷をたどったかを理解する.	個人・グループ
3	作業と健康	作業療法の本質は健康を支援する専門職である. 人々の健康に作業がどのような意味と価値を持つか理解する.	個人・グループ
4	作業科学とは	作業療法の最も主な学問基盤は社会科学の一領域である作業科学であり, 作業療法で応用する知識と技術を理解する.	個人・グループ
5	作業と運動学, 神経生理学	作業する人の運動器理解の基盤となる運動学, 運動を制御する神経制御の基盤となる神経生理学の関係を理解する.	個人・グループ
6	作業と心理学, 人間発達学	作業する人の行動の基盤となる心理学, 作業による成長や運動発達の基盤となる人間発達学の関係を理解する.	個人・グループ
7	作業療法の体験1	作業療法士に必要なコミュニケーションスキルを活用し, 作業療法を体験する.	個人・グループ
8	作業療法の体験2	体験した作業療法の効果を様々な視点から分析して, 人が作業から何を得るのか理解する.	個人・グループ
9	作業分析・動作分析	作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する.	個人・グループ
10	作業ができることを目的とする場合と作業を治療手段とする場合	同じ作業を行う場合でも, 作業ができることを目的とする場合, 作業を治療手段とする場合, 職業とする場合の違いを理解する.	個人・グループ
11	革細工　1	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人・グループ
12	革細工　2	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人・グループ
13	革細工　3	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人・グループ
14	革細工　4	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人・グループ
15	革細工　5	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人・グループ
期末試験	レポート	評価方法	レポート　70% 小テスト　30%

【教科書】	基礎作業療法学　第3版　医学書院 作業活動実習マニュアル　第2版　医歯薬出版
【参考書】	作業で語る事例報告　医学書院
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	適宜小テストを実施するため, 予習復習を忘れずに取り組むこと.
【本講義に関しての質問先】	担当教員
【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
基礎作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸	病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法の最大の特徴である「作業（活動・生活行為）」に焦点を当てる専門職としての基礎について理解する．Occupyの意味，作業療法の土台となる基礎学問を理解し，応用科学としての作業療法について実技を通じて理解する．

【学習目標（到達目標）】

①作業療法の基礎学問となる作業科学について理解できる．
②作業療法の関連学問である各種学問について理解できる．
③対象となる人の動作や作業を分析して説明できる．
④作業活動を実際に行い，作業が人に与える身体・心理の影響，癒やしの機序を説明できる．
⑤

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
コミュンケーションスキル

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	木工	木工活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
2	木工	木工活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
3	木工	木工活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
4	木工	木工活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
5	木工	木工活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
6	裁縫	裁縫活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
7	裁縫	裁縫活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
8	裁縫	裁縫活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
9	裁縫	裁縫活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
10	陶芸	陶芸活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
11	陶芸	陶芸活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
12	陶芸	陶芸活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
13	陶芸	陶芸活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
14	陶芸	陶芸活動を通して，作業の工程を理解，習熟し，作業分析まで理解する．	個人・グループ
15	まとめ	作業活動とその治療的意味について振り返りと	個人・グループ
期末試験	レポート	評価方法　レポート 70%　小テスト 30%	

【教科書】	基礎作業療法学　第3版　医学書院 作業活動実習マニュアル　第2版　医歯薬出版
【参考書】	作業で語る事例報告　医学書院
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	適宜小テストを実施するため，予習復習を忘れずに取り組むこと．
【本講義に関しての質問先】	担当教員　【質問方法】　教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
作業療法概論 ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸	病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法とはなにかという専門職の核となる知識を学習する。作業療法士の専門性と独自性について学習し、専門職としてのアイデンティティについて理解を深める。医療，保健，福祉，教育，職業などの幅広い領域で作業に焦点を当てる専門職を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①作業療法の目的や手段について理解することができる.	考え抜く力
②作業療法士が働く領域や実践の枠組みについて説明することができる.	知識・理解
③作業療法について説明できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	態度・志向性
⑤	コミュンケーションスキル

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	作業療法士と理学療法士の違い	作業療法士と理学療法士の違いについて説明する. 作業療法士に求められる資質について説明する.	個人・グループ
2	作業療法とは	作業･作業療法の定義を説明する. 作業療法の歴史と変遷について説明する.	個人・グループ
3	作業療法実践のプロセス	作業療法処方箋のもと，情報収集について理解する. 統合と解釈，目標設定，治療計画立案について理解する.	個人・グループ
4	身体障害領域，精神障害領域	身体障害，精神障害における作業療法の概要を説明する.	個人・グループ
5	老年期障害領域，発達障害領域	老年期障害，発達障害における作業療法の概要を説明する.	個人・グループ
6	作業療法を説明する1	グループ学習を通じて作業療法を理解する.	個人・グループ
7	作業療法を説明する2	グループ学習を通じて作業療法を理解する.	個人・グループ
8	作業療法を説明する3	課題発表を行い，作業療法を説明する.	個人・グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験		評価方法	発表会の結果　70% 課題の達成度　30%	

【教科書】	作業療法概論　第3版　医学書院
【参考書】	作業で語る事例報告　医学書院

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習課題を事前に提出すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法演習Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野　真一		病院(作業療法士)7年勤務	高野
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

作業療法の幅広い対象領域・対象者、手段について体験学習・演習を通して深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 作業療法の面白さ、広さ、深さを知り、他者に説明することができる。 ② 自分はどのような作業療法士になりたいかを考え、他者に説明することができる。 ③ 専門職に求められる態度や行動を身に付け実践することができる。 ④ 学生間の情報交換・交流ができる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 統合的学習体験 前に踏み出す力

【履修上の注意】「自分の意見を持つこと」が求める目標である。そのためには主体的に演習に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	当科目の進め方、参加の仕方について理解し、当科目で習得する個人目標を立てることができる。	個人
2	作業療法の実践とは	作業療法の実践の「意味」「形態」「機能」について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
3	医療領域における作業療法	医療領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
4	保健領域における作業療法	保健領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
5	福祉領域における作業療法	福祉領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
6	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
7	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
8	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
9	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
10	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
11	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
12	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
13	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
14	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ
15	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	ペア・グループ

期末試験	レポートによる	評価方法	レポート 40% 発表会の結果 30%	課題の達成度 30%

【教科書】	教科書はありません。作業療法概論指定の教科書など講義中に案内します。
【参考書】	特に無し。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	講義時間内で調べ・まとめが終わらない時は、次の講義までに進めておくこと。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】		【科目責任者】
作業療法演習Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目	田中絹代	肢体不自由児施設(作業療法士)22年勤務	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

作業療法の対象および実践の領域の理解を体験学習・演習を通して深めます.

【学習目標(到達目標)】
①作業療法士の実践の場について説明ができる
②社会人として必要なコミュニケーションの基礎を学び身につける.
③見学演習を行い, 見学実習にむけた自己課題が認識できる.

【受講して得られる力】
専門職としてのｽｷﾙ・意識
前に踏み出す力
コミュンケーションスキル
態度・志向性

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	作業療法士の実践領域 田中	講義内容のオリエンテーション, 作業療法士の実践領域の講義, 各領域にお	個人・ペア
2	作業療法の対象者の理解 田中	作業療法の対象者(医療・福祉・保健・教育)についてグループワークを通して理解する. また, 障害観についても理解を深める.	個人・グループ
3			
4	見学演習に向けた事前準備 田中	挨拶など社会的なマナーや手洗いなどの衛生管理について演習を通して身につける	ペア
5	見学演習に向けた事前準備 田中	演習を通して話題の提供などコミュニケーションの基本的なスキルを身につける.	ペア
6	作業療法の実践(精神科領域) 外部講師	精神科領域で働く作業療法士が実際にどのような関わりを行っているか理解を深める.	個人
7	作業療法の実践(老年期領域) 外部講師	老年期領域で働く作業療法士が実際にどのような関わりを行っているか理解を深める.	個人
8	作業療法の実践(発達障害領域) 外部講師	発達障害領域で働く作業療法士がどのような関わりを行っているか理解を深める	個人
9	作業療法の実践(地域・行政領域) 外部講師	地域・行政領域で働く作業療法士がどのような関わりを行っているか理解を深める.	個人
10	各領域に分かれた見学演習準備 OT学科教員	各領域に分かれて, 学外施設での見学演習の事前学習・事前準備を行う.	グループ
11	各領域に分かれた見学演習① OT学科教員	学外施設での見学演習を行う. 作業療法以外の職種がどのように対象者に関わっているかを説明できるようにする.	グループ
12	各領域に分かれた見学演習② OT学科教員		グループ
13	見学演習の振り返り 田中	見学演習の内容を振り返り, 施設の概要や役割, 対象者, 自己課題についてまとめる.	グループ
14	見学演習の発表 田中	発表を通して見学実習に向けて必要なコミュニケーションを身につける.	グループ
15	まとめ 田中	作業療法の対象者や実践の内容について広い視点から説明できる	個人・グループ

期末試験	レポート	評価方法	レポート 60% 発表会の結果 30%	授業への貢献 10%

【教科書】	なし
【参考書】	適時紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	グループ活動のまとめ

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生活環境論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代		肢体不自由児施設(作業療法士)22年勤務	田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義・演習	1

【授業の概要・目的】

日常生活の基盤である地域やそこでの住環境は障害者や高齢者、家族や介助する人達にとって重要である。「生活環境」についてや多様な視点から検討し、作業療法士として「生活環境」にどのように関わることができるのが学びます

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①「生活」と「環境」、ノーマライゼーションの考え方に関心を持つ ②子どもや障害者、高齢者の生活環境に関心を持ち、支援策について理解する ③福祉用具や環境機器に関する基礎知識を身に付ける.	専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性

【履修上の注意】	障害者体験や高齢者体験を行います。動きやすい服装で参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	総論①	「環境」の概念について理解し、自分にとっての「理想の生活環境」について表現する	個人・ペア
2	総論②	「生活」と「環境」、および「行動」の関係について理解する	個人・ペア
3	総論③	障害者の生活について、「医学モデル」と「社会モデル」から理解する	個人・グループ
4	『生活環境整備』①	生活環境の変遷について学び, 現在の社会で望まれる生活環境(住宅・地域)について理解する.	グループ
5	『生活環境整備』②	障害者・高齢者に適した生活環境(住宅や地域)について検討する	グループ
6	『生活環境整備』③	実際の車いす体験・高齢者を通して, 障害者・高齢者に適した生活環境(住宅や地域)について理解する	グループ
7	『生活環境整備』④	障害者・車椅子体験を振りかえり、障害者や高齢者に適した生活環境(住宅や地域)について発表する	グループ
8	『生活環境整備』⑤	子育て世帯に適した生活環境(住宅や地域)について検討する	グループ
9	バリアフリーとユニバーサルデザイン	「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」について理解する	グループ
10	『国際生活機能分類:ICF』	『国際生活機能分類:ICF』の考え方について理解する	グループ
11	福祉機器展示見学①	福祉機器展示の見学および体験を通して, 福祉機器と生活環境(特に住環境)について理解を深める.	グループ
12	福祉機器展示見学②		
13	『生活』と『環境』のまとめ①	福祉機器展示の見学を振りかえり、障害者や高齢者に適した生活環境について具体的な支援について調べる	グループ
14	『生活』と『環境』のまとめ②	障害者や高齢者に適した生活環境について具体的な支援について発表する	グループ
15	『生活』と『環境』のまとめ③	これまでの授業を振りかえり、作業療法士として「生活環境」にどのように関わることができるか理解する	個人
期末試験	原則なし	評価方法	

【教科書】	適時紹介します
【参考書】	適時紹介します
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	グループ発表の準備

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療倫理・職業倫理 ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井　俊介1)・佐藤正彦		1)病院(作業療法士)11年勤務	薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

対象者の尊厳と権利を擁護する医療従事者の責務について学び、医療における倫理的問題について自分の考えを確立させることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療専門職として職業倫理および医療倫理を高める重要性を理解する。 ②医療職に必要な倫理観など基本的事項について学習する。 ③作業療法士の職業倫理について述べることができる。 ④ ⑤	考え抜く力 チームで働く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 問題解決力

【履修上の注意】 自分だけで考えるのではなく、周囲の意見を聞きながら自分の考えをまとめること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	職業適性と職業選択 佐藤	日本作業療法士協会の倫理綱領と職業倫理指針について学び、作業療法士に必要な倫理観について理解する。	個人
2	チーム医療とリーダーシップ 佐藤	多職種連携とコミュニケーションの重要性について理解する。	個人
3	クライアント中心の医療とインフォームドコンセント 佐藤	クライアント(患者)中心の医療や自己決定権、インンフォームドコンセントの重要性について理解する。	個人
4	個人情報保護と守秘義務 佐藤	個人情報保護の原則と、医療従事者の守秘義務の重要性について理解する。	個人
5	リスクマネジメント 佐藤	リスクマネジメントの概念と方法、現場での対策について学ぶ。	個人
6	医療職のキャリア形成 佐藤	医療の現場に出て、自分を活かしていくために何が必要か、どのように主体性を身に着けていくかを学ぶ。	個人
7	作業療法実践における倫理的ジレンマ 佐藤	医療現場で起こる医療職ゆえの葛藤について、それをどのように解決していけばよいかを、事例を通して学ぶ。	個人
8	「いのちの始まり」 薄井	妊娠中絶の例を通して、「いのち」の誕生について話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
9	「子どもの医療」 薄井	自分で決められない「子ども」に対する医療の責任はだれにあるのか、話し合いから自分の考えを文章にまとめる。	グループ
10	「いのちの決定」 薄井	認知症の人の治療はだれが決めるのか。「自己決定」について話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
11	「いのちの質」 薄井	人工授精や精子バンクなど、生殖医療について話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
12	「いのちの優先順位」① 薄井	脳死と臓器移植について、意見交換を通して自分の考えを明らかにし、文章にまとめる。	グループ
13	「いのちの優先順位」② 薄井	結合双生児の分離手術の例を通して、生命に優先順位は存在するのかを話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
14	「いのちの優先順位」③ 薄井	「人間」と「動物」など、種の違うものの生命に優先順位はあるのか話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
15	「いのちの終わり」 薄井	終末期医療と安楽死について、グループで話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ

期末試験	レポートや提出物で評価する。	評価方法	課題の達成度　100%

【教科書】	特に定めない。講義の中で参考資料を配布する場合がある。
【参考書】	特に定めない。講義の中で参考資料を配布する場合がある。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 資料を事前に渡された場合は、それを熟読して授業に臨むこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて